（2）　　２　学　年　：　29　期　生

基礎分野

| 科目 | 教育学<br>Pedagogy | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) | 担当講師 | 鈴木三平（スズキ サンペイ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |
| 授業概要 | 教育とケア―人間の成長・発達と健康―について考察する。 | | | | |
| 授業計画 | ○　ケアと人間形成<br>1　ケアの概念、ケアリングの概念<br>2　ケアの理論的モデル：古典的ケア論、近代ケア論<br>3　ケア論のなかの人間形成、セルフケアと人間形成<br>4　ケアと相互応答性、ケアと責任、発達論としてのケア論<br>5　健康のケアの類型、臨床的ケアと社会的ケア<br>6　社会的倫理としてのケア、文化としてのケアと人間形成<br>○　健康と教育<br>7　健康と教育の理論的基礎：教育をとおしての健康と健康をとおしての教育<br>8　健康教育の歴史と健康教育の概念<br>○　健康と教育の場<br>9　教育の場としての学校と健康<br>10　学校保健の活動<br>11　学校保健の広がり<br>12　学校でのケア：看護と養護、養護と教育、学校でのケアにおける普遍性と専門性、学校保健におけるケアの特質<br>○　健康教育の現代像<br>13　健康教育の展開とモデル：地域における健康教育、参加型健康教育と健康学習論<br>14　エンパワーメントとアドボカシー<br>15　まとめ | | | | |
| 評価 | 出席状況とレポート提出及び学期末筆記試験を総合して評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 新体系看護学全書　基礎科目『教育学』(メヂカルフレンド社) | | | | |
| 参考図書 | 授業時に適宜紹介する。 | | | | |

基礎分野

| 科目 | 倫理学<br>Ethics | 単位数（時間） | 1単位（15時間） | 担当講師 | 吉田（ヨシダ） 寛（ヒロシ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

**授業概要**

倫理学は、人間としての幸福とは何か、ひとに対する正しさとは何か、といった問題について考えます。倫理学には、長い歴史を通じて示されてきた多くの倫理的ルールや倫理学理論があります。しかし、医療・看護を含んだ「ケア」を取り巻く社会的、技術的状況は急激に変化しています。そこで、ただ決まった倫理的ルールや理論を憶えるのではなく、こうしたルールや理論を踏まえて、自分が直面するさまざまな新しい現実にどう倫理的に対応すればよいのかを柔軟に考えるトレーニングをしてみましょう。
この授業では、テキストを手掛かりにして、人間の生命にかかわる倫理的問題について具体的に考えていきます。いくつかの生命倫理の重要な問題について、看護や福祉の専門職として、あるいは人間として、どう向き合い取り組むべきかをグループで検討していきます。こうした取り組みを通じて、急激に変化する社会の中で、よりよりケアを実現していくための倫理的な考え方や方法、態度を、外側からの知識としてではなく、いわば問題の内側から学びます。

**授業計画**

テキスト『マンガで学ぶ生命倫理』を手掛かりに、生命倫理の次のトピックについて検討していきます。まずテキストを使って倫理的な論点や倫理的な議論を確認します。ついでグループでこうした論点について検討します。その後、検討した結果を発表し、さらにクラス全体で検討します。

１：「倫理」とは何か　グループワーク・レジュメ作成
　　「倫理」という問題の捉え方
　　グループワークの練習
２：出生前診断、中絶の倫理　グループワーク・レジュメ作成
３：出生前診断、中絶の倫理的問題　全体
　　生まれてくる命に対する態度
　　「功利主義」と「義務論」
４：告知、安楽死、寿命についての倫理
５：告知、安楽死、寿命についての倫理
　　老いと死をどう受けとめるか
　　「自己決定」と「ケア」
６：ips、エンハンスメント治療の倫理
７：ips、エンハンスメント治療の倫理
　　科学技術と人間の限界
　　「超人」と「人間」
８：専門職の責任
　　「看護」「介護」と専門職

**評価**

平常点（グループワーク、小レポートなど）70%とレポート試験（最終）30%

**使用テキスト**

児玉聡・なつたか『マンガで学ぶ生命倫理』化学同人、2013.

**参考図書**

各トピックで関連する内容を紹介します。読みやすいものを挙げておきましたので、興味の湧いた人はじぶんで手に取って見てください。

小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』筑摩書房（プリマー新書，2011.
児玉聡『功利主義入門　はじめての倫理学』筑摩書房（ちくま新書）2012.
星野一正『医療の倫理』岩波書店（岩波新書）1991.
河合隼雄『「老いる」とはどういうことか』講談社（＋α文庫）1997.
広井良典『ケアを問い直す』筑摩書房（ちくま新書）1997.
小川和也『デジタルは人間を奪うのか』講談社（現代新書）2014.
波頭亮『プロフェッショナル原論』筑摩書房（ちくま新書）2006.

基礎分野

| 科目 | 看護英会話<br>Nurse English Conversation | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当講師 | アンジェラ トランター<br>Angela Tranter |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |
| 授業概要 | 学生の英語能力を把握し、基本的文法も合わせて教授しながら<br>看護業務英語の習得およびTOPEC合格を目指す。 | | | | |
| 授業計画 | 第1日　1章　初対面の対応<br>第2日　2章　症状<br>第3日　3章　患者のプロフィール<br>第4日　復習<br>第5日　4章　病歴と生活習慣<br>第6日　5章　病棟内のオリエンテーション<br>第7日　6章　日常生活動作<br>第8日　復習<br>第9日　7章　バイタルサイン<br>第10日　8章　検査と処置<br>第11日　9章　処方薬の管理<br>第12日　復習<br>第13日　10章　退院時の指導<br>第14日　復習および模擬テスト<br>第15日　復習および模擬テスト | | | | |
| 評価 | 宿題、出席状況、定期試験により総合評価 | | | | |
| 使用テキスト | Nursing English in Action , IPEC. | | | | |
| 参考図書 | | | | | |

専門基礎分野

| 科目 | 病態学Ⅳ<br>PathophysiologyⅣ | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) |
|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 1　神経系の障害を持つ患者の身体アセスメントができる基礎的知識を習得するために、疾患の病態、治療、検査について理解する。<br>2　感覚器系の障害を持つ患者の身体アセスメントができる基礎的知識を習得するために、疾患の病態、治療、検査について理解する。<br>3　口腔、歯の障害を持つ患者の身体アセスメントができる基礎的知識を習得するために、疾患の病態、治療、検査について理解する。 |

| 授業計画 | | 担当講師 |
|---|---|---|
| 1　1)脳・神経系の検査・診断と治療法<br>2)脳・神経系の疾患の理解<br>神経系の障害、頭部外傷、<br>脳腫瘍<br>脳梗塞、脳出血、くも膜下出血<br>パーキンソン症<br>筋委縮性側索硬化症(ALS)<br>多発性硬化症<br>脳・神経系の症状とその病態生理 | 40点分<br>14時間 | 1組、2組　塚野(ツカノ)未来(ミキ) |
| 2　感覚器系の障害<br>目の障害<br>炎症、屈折の異常、白内障、緑内障、網膜剥離 | 15点分　4時間 | 1組、2組　宇佐美(ウサミ)貴寛(タカヒロ) |
| 3　耳、鼻、咽喉の障害<br>炎症、腫瘍、鼻出血 | 15点分　4時間 | 1組、2組　疋田(ヒキタ)由美子(ユミコ) |
| 4　皮膚の障害<br>湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、<br>蜂窩織炎、褥瘡、熱傷 | 15点分　4時間 | 1組、2組　橋爪(ハシヅメ)秀夫(ヒデオ) |
| 5　口腔、歯の障害<br>歯の異常と疾患、炎症、腫瘍、先天異常<br>顎関節脱臼、神経の疾患 | 15点分　4時間 | 1組、2組　夫(フ)　才成(サイセイ) |

| | |
|---|---|
| 評価 | 担当講師毎に行われる定期試験の結果で評価する。 |
| 使用テキスト | 1　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[7]　脳・神経　医学書院<br>2　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[13]　眼　医学書院<br>3　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[14]　耳鼻咽喉　医学書院<br>4　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[12]　皮膚　医学書院<br>5　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[15]　歯・口腔　医学書院 |
| 参考図書 | 必要に応じて紹介する |

専門基礎分野

| 科目 | 病態学Ⅴ<br>Pathophysiology Ⅴ | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) |
|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 |

| | | |
|---|---|---|
| 授業概要 | 1　精神の障害を持つ患者の看護アセスメントができる基礎的知識を習得するために、疾患の概念および病態、治療、検査について理解する。<br><br>2　小児期にある患児の身体アセスメントができる基礎的知識を習得するために、疾患の病態、治療、検査について理解する。 | |
| 授業計画 | | 担当講師 |
| | 1　1)精神の障害　35点分<br>症状性を含む器質性精神障害<br>(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、せん妄)<br>統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害<br>気分(感情)障害、神経症性障害、ストレス関連障害<br>身体表現性障害、パーソナリティ障害、知的障害<br>習慣および衝動の障害、性同一性障害<br>小児期・青年期に発症する行動・情動の障害<br>精神作用物質使用による精神・行動障害<br>心理的発達の障害 | 1組、2組　横山絵理(ヨコヤマエリ) |
| | 2)精神科での治療　15点<br>薬物療法・電気けいれん療法<br>精神療法<br>環境療法・社会療法 | 1組、2組　大城将也(オオシロマサヤ) |
| | 2　小児の健康障害　50点分<br>出生前の障害<br>新生児の疾患<br>栄養障害、成長障害<br>小児癌<br>消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患<br>泌尿器・生殖器疾患、神経・筋疾患、内分泌疾患<br>膠原病、代謝性疾患、感染症、皮膚疾患、運動器疾患 | 1組、2組　戸田(トダ)　克(カツミ) |
| 評価 | 担当講師毎に行われる定期試験の結果で評価する。 | |
| 使用テキスト | 1　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学[2]　医学書院<br>2　ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版 | |
| 参考図書 | 必要に応じて紹介する。 | |

専門基礎分野

| 科目 | 臨床医学特論<br>Advanced Course of Clinical Medicine | 単位数（時間） | 1／5単位（6時間） | 担当講師 | 山内克哉（ヤマウチ カツヤ）<br>永房鉄之（ナガ フサ テツユキ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |
| 授業概要 | リハビリテーションの定義と理論、障害評価による科学的な予後予測に基づいた全職種による総合的なプログラムの展開を可能にする協働システム（地域も含む）の考え方を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | リハビリテーション医学<br>1 リハビリテーションとは<br>リハビリテーションにおける倫理、法律、施策<br>チームアプローチと看護の役割<br>2 身体機能のメカニズムとアセスメント<br>・ 栄養<br>・ 高次脳機能<br>3 身体機能のメカニズムとアセスメント<br>・ 運動<br>生活の再構築へのアセスメントと援助 | | | 山内克哉<br>永房鉄之 | |
| 評価 | 定期試験の結果により評価する | | | | |
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ　成人看護学5　リハビリテーション看護　メディカ出版<br>リハビリテーションビジュアルブック　学研 | | | | |
| 参考図書 | | | | | |

専門基礎分野

| 科目 | 臨床医学特論<br>Advanced Course of Clinical Medicine | 単位数(時間) | 2／5単位(12時間) | 担当講師 | 寺田理希(テラダ マサキ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |
| 授業概要 | 医療・看護の現場で役に立つ放射線の基礎知識を身につけるとともに、各種放射線検査の目的と診断価値を理解し、対象に放射線検査や放射線治療についてわかりやすく説明するコミュニケーション能力を身につけられるようにする。 | | | | |
| 授業計画 | 放射線医学<br>1 放射線とは<br>2 医療で利用される放射線とは<br>3 看護に必要な放射線の知識とは<br>4 医療放射線の障害とは<br>5 放射線診断と看護師の役割<br>6 患者様からの放射線診療の疑問に答える<br>7 理解すれば怖くない放射線の知識<br>8 患者様の放射線防護の原則と注意点<br>9 看護師の放射線防護の原則と注意点<br>10 CT検査と看護師の役割<br>11 MRI検査と看護師の役割<br>12 核医学検査と看護師の役割<br>13 放射線治療と看護師の役割 | | | | |
| 評価 | 授業態度(積極的に質問や意見・考えを発言する)<br>課題提出(文献や論文などを検索・調査して文書で報告する)<br>筆記試験・口頭試験(講義内) | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院. | | | | |
| 参考図書 | | | | | |

専門基礎分野

| 科目 | 臨床医学特論<br>Advanced Course of Clinical Medicine | 単位数（時間） | 2／5単位（12時間） | 担当講師 | 久留島幸路（クルシマ ユキジ）<br>他 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |
| 授業概要 | 疾病の成り立ちと回復の促進の理解をめざし、診断のための臨床検査および疾病に対する特殊な治療について学び、対象のアセスメントをするために必要な基礎的知識を習得する。 | | | | |
| 授業計画 | 臨床検査<br>臨床検査は、客観的な指標として臨床的な診断や治療方針の決定の判断材料として利用されており、患者の病態を把握する上で非常に重要である。<br>臨床検査に関わる看護業務は、患者への検査説明や検体採取、検査介助など多方面で重要な役割を担っていることから、検査を行う上での注意点、検査の意義や検査結果の解釈の仕方、疾患と検査の関連性など、各分野で活躍する臨床検査技師が現場で役立つ知識を紹介する。<br>1　臨床検査の基礎 ―――― 久留島幸路<br>2　微生物検査 ―――― 上村のり子<br>3　病理検査 ―――― 栗田　昭<br>4　生体機能検査 ―――― 久留島幸路<br>5　輸血検査 ―――― 山本麻貴<br>6　血液・生化学検査 ―――― 川井康太 | | | | |
| 評価 | 筆記試験 | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　別巻　臨床検査　　医学書院. | | | | |
| 参考図書 | 「臨床検査の正しい仕方　−検体採取から測定まで−」宇宙堂八木書店 | | | | |

| 科目 | 成人臨床看護Ⅰ<br>Adult Clinical Nursing Ⅰ | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 櫻井(サクライ) 志保(シホ)<br>佐藤(サトウ) 百合子(ユリコ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 急激な健康破綻から回復を促す、救命救急時の看護に必要な基本概念と方法論(看護技術)を学ぶ。<br>事例を通して、ICU/CCU入室患者への看護を、根拠をもとに具体的に展開できるようにしていく。 |

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 救急看護とは | | 講義 | 授業の進行度に合わせ、小テストを行う |
| 2 | 救命状態にある患者の身体的・心理的反応 | | 講義 | |
| 3 | 救急外来での看護 | | 講義・演習 | |
| 4 | 救急患者・家族に対するアセスメント① | | 講義 | |
| 5 | 救急患者・家族に対するアセスメント② | | 演習 | |
| 6 | 重症集中治療における看護の実際 | 櫻井 | 講義・演習 | |
| 7 | 救命状態にある患者の情報整理 | | 演習 | |
| 8 | 心筋梗塞の患者の看護① (情報分析し、患者をイメージする) | | 演習 | |
| 9 | 心筋梗塞の患者の看護② (看護アセスメント・看護介入) | | 演習 | |
| 10 | 心臓リハビリテーション時の看護 | | 講義・演習 | |
| 11 | 急性期の看護技術(シリンジポンプ・心電図装着・気管内挿管など) | | 演習 | |
| 12 | 心電図モニタリングしている患者の看護(心電図) | | 講義 | |
| 13 | くも膜下出血で入院をした患者の看護① | | 講義 | |
| 14 | くも膜下出血で入院をした患者の看護② | 佐藤 | 講義 | |
| 15 | くも膜下出血で入院をした患者の看護③ | | 講義・演習 | |

備考
※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなる。
※レポート、リフレクションの提出が期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる。欠席の場合は、0点とする。
※状況により、各回数が前後する場合がある。
※マイクロソフトチームズやスクールタクトを利用する。

| 評価 | |
|---|---|
| | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:講義中の態度、課題提出状況、期末試験結果によりルーブリック評価表を用いて評価する。 |

| 使用テキスト | | |
|---|---|---|
| | 看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期 | 南江堂 |
| | 看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 | 南江堂 |
| | 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| | 系統看護学講座 成人看護学(3)循環器・(7)脳・神経 | 医学書院 |
| | これならわかる心電図の読み方 | ナツメ社 |

| 参考図書 | | |
|---|---|---|
| | 患者がみえる新しい「病気の教科書」カンテキ 循環器 | メディカ出版 |
| | はじめての心臓カテーテル看護 | メディカ出版 |
| | 心臓リハビリテーション完全ガイド | メディカ出版 |
| | すごくわかる心臓カテーテル | メディカ出版 |
| | 月間ナーシング4 急変対応完全マスター | 学研 |
| | 救急での働きかた 患者のみかた | メディカ出版 |
| | 完全版 ビジュアル臨床看護技術ガイド | 照林社 |
| | 成人看護技術 | 南江堂 |
| | ICU 3年目ナースのノート | 日総研 |
| | その他、参考図書は授業の中で随時紹介していく | |

| 科目 | 成人臨床看護Ⅱ<br>Adult Clinical Nursing Ⅱ | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 鈴木(スズキ) 真理(マリ)<br>森下(モリシタ) 久実(クミ)<br>伊藤(イトウ) しおり |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |

**授業概要**

健康生活の急激な破綻から回復を促す看護としての周手術期看護を展開するために必要な基本概念と方法論(看護技術)を学ぶ。

事例を通して、周手術期にある患者への看護を、根拠をもとに具体的に展開できるようにしていく。

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 周手術期看護とは | 鈴木 | 講義 | 課題提出 |
| 2 | 胃がんで胃全摘術を受ける患者の看護 術前 | | 講義 | 課題提出 |
| 4 | 胃全摘出術患者の全体関連図 | | 講義 | 課題提出 |
| 5 | 胃全摘出術患者のアセスメント | | 演習 | 課題提出 |
| 6 | 胃全摘出術患者のアセスメント | | 演習 | 課題提出 |
| 7 | 胃全摘出術患者のケアプランの立案 | | 講義 | 課題提出 |
| 8 | 胃全摘出術患者の退院指導 | | 演習・講義 | 課題提出 |
| 9 | 手洗い・ガウンテクニック | 伊藤 | 演習・講義 | 課題提出 |
| 10 | 手術室の看護 | | 講義 | |
| 11 | 術後患者のドレーン破棄・尿破棄の仕方 | | 演習・講義 | |
| 12 | 腹腔鏡下胆のう摘出術を受ける患者の看護 術前 | | 講義 | |
| 13 | 腹腔鏡下胆のう摘出術を受ける患者の看護 術後 | | 講義 | |
| 14 | ボディイメージの変容 | 森下 | 講義 | |
| 15 | 乳がんで乳房切除術により身体の一部を喪失する患者の看護 | | 講義 | |

備考
※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなります。
※レポート等課題の提出が期限に遅れた場合は評価できない場合があります。
※状況により各回数が前後する場合があります。
※マイクロソフトチームスやスクールタクトを使用します。

**評価**

講義時間の2／3以上の出席で評価対象となります。

評価方法:講義中の態度、課題提出状況、授業レスポンス、期末試験結果等により評価します。

**使用テキスト**

| | |
|---|---|
| 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 | 南江堂 |
| 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器・(9)女性生殖器 | 医学書院 |
| 看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス | インターメディカ |
| 完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド | 照林社 |
| 成人看護技術 | 南江堂 |

**参考図書**

| | |
|---|---|
| 手術看護1UP | 医学教育出版社 |
| ナースのためのやさしくわかる手術看護 | ナツメ社 |
| はじめての手術看護 | メディカ出版 |
| 看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本 | 秀和システム |

その他、参考図書は授業のなかで随時紹介していく。

| 科目 | 成人臨床看護Ⅲ<br>Adult Clinical NursingⅢ | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 東原(ヒガシハラ) 慎(シン)<br>岡田(オカダ) 浩子(ヒロコ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |

| 授業概要 | 成人期で生活上の障害を生じている患者の看護を、セルフマネジメント・リハビリテーション・セルフケアの再獲得といった視点で展開する方法を学ぶ。<br>また、患者に必要なケアの具体的方法を、科学的根拠をもとに考える力を養う。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 糖尿病の患者さんの看護に必要なデータ | ↑ | 演習・講義 | 事前学習 |
| 2 | 糖尿病の患者さんの看護に必要なデータ | | 演習・講義 | 実習室 |
| 3 | 糖尿病の患者さんから情報収集をする | | 演習・講義 | |
| 4 | 糖尿病の患者さんのデータ分析 | | 演習・講義 | |
| 5 | 糖尿病の患者さんのデータ分析 | | 演習・講義 | 課題提出 |
| 6 | 糖尿病の患者さんの病態関連図 | | 演習・講義 | |
| 7 | 糖尿病の患者さんの全体関連図 | 東原 | 演習・講義 | 課題提出 |
| 8 | 糖尿病の患者さんのケアプラン | | 演習・講義 | 課題提出 |
| 9 | 糖尿病の患者さんのケアプランを評価する | | 演習・講義 | |
| 10 | 脊髄損傷の患者さんのデータ収集をする | | 演習・講義 | |
| 11 | 脊髄損傷の患者さんのデータ分析 | | 演習・講義 | |
| 12 | 脊髄損傷の患者さんのケアプラン | | 講義・演習 | 課題提出 |
| 13 | 慢性疾患のある患者の看護 | ↓ | 講義 | |
| 14 | 慢性腎臓病の患者の看護 | ↑ 岡田 | 講義 | |
| 15 | 透析を受けている患者の看護(自己管理について) | ↓ | 講義 | |

備考
※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなる。
※レポート等課題の提出が期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる。欠席の場合は、0点とする。
※状況により、各回数が前後する場合がある。
※マイクロソフトチームスやスクールタクトを使用します。

| 評価 | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:課題内容と提出状況、期末試験結果により評価する。 |
|---|---|

| 使用テキスト | 成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人 南江堂<br>リハビリテーションビジュアルブック 学研<br>糖尿病治療の手引き 南江堂 |
|---|---|

| 参考図書 | 系統看護学講座 成人看護学(6)内分泌・代謝・(8)腎・泌尿器・(10)運動器 医学書院<br>系統看護学講座 専門5 成人看護学総論 医学書院<br>完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社<br>成人看護技術 南江堂<br>糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂<br>腎臓病食品交換表 医歯薬出版<br>治療薬マニュアル 医学書院<br>疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院<br>その他、参考図書は授業のなかで随時紹介していく。 |
|---|---|

| 科目 | 成人臨床看護Ⅳ<br>Adult Clinical NursingⅣ | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 野中(ノナカ) 真紀(マキ)<br>前田(マエダ) 怜子(レイコ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |

| 授業概要 | 人生の最期を支えるための看護を展開するために必要な基本概念と方法論(看護技術)を学ぶ。<br>また、患者に必要なケアの具体的方法を、科学的根拠をもとに考える力を養う。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 終末期医療の現状と課題・がん患者 | | 講義 | |
| 2 | 内視鏡検査を受ける患者の看護 (消化管・気管) | | 講義・演習 | |
| 3 | 直腸がんでストーマを増設している患者の看護 | | 講義・演習 | |
| 4 | 化学療法を受ける患者の看護① | | 講義・演習 | |
| 5 | 化学療法を受ける患者の看護② | | 講義・演習 | |
| 6 | 放射線療法を受ける患者の看護 | 野中 | 講義・演習 | |
| 7 | 末期がん患者の症状に対する看護 | | 講義・演習 | |
| 8 | 末期がん患者の症状に対する看護 | | 講義・演習 | |
| 9 | がん患者の心理・緩和ケアに必要なコミュニケーション | | 講義・演習 | |
| 10 | 集学的治療を受ける肺がん患者の看護 | | 講義・演習 | |
| 11 | 緩和ケアにおける倫理 | | 講義・演習 | |
| 12 | 緩和ケア技術演習 | | 演習 | |
| 13 | 看取り・家族への看護 | | 講義・演習 | |
| 14 | 白血病で化学療法と造血幹細胞移植を受ける患者の看護① | 前田 | 講義・演習 | |
| 15 | 白血病で化学療法と造血幹細胞移植を受ける患者の看護② | | 講義・演習 | |

備考
※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなることがあります。
※レポート、レスポンスカードの提出が期限に遅れた場合、原則として評価できないことがあります。
※状況により、各回数が前後する場合がある。講義の場合も、小グループでの活動となることが多い。
※チームズやスクールタクトを利用します。

| 評価 | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:講義中の態度、課題提出状況、期末試験結果により評価する。 |
|---|---|

| 使用テキスト | | |
|---|---|---|
| | 系統看護学講座 成人看護学総論 | 医学書院 |
| | 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 | 医学書院 |
| | 成人看護技術 がん・ターミナル | メヂカルフレンド社 |
| | 系統看護学 成人看護学(2)・(4)・(5) | 医学書院 |
| | 成人看護技術 | 南江堂 |
| | 今日の治療薬 | 南江堂 |
| | 看護倫理 | 南江堂 |
| | これならわかる心電図の読み方 | ナツメ社 |

| 参考図書 | | |
|---|---|---|
| | 完全版臨床基礎看護技術ガイド | 照林社 |
| | 看護過程に沿った対症看護 | 学研 |
| | 各ビジュアルブック 呼吸器・消化器・血液系疾患 | 学研 |
| | 各病気が見えるシリーズ 呼吸器・消化器・血液系疾患 | メディックメディカ |
| | 疾患別看護過程＋病態関連図 | 医学書院 |
| | その他、参考図書は授業のなかで随時紹介していく。 | |

| 科目 | 成人看護技術演習<br>Adult Nursing Skils Seminar | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 伊藤しおり(イトウ) 野中真紀(ノナカ マキ)<br>長谷川瑠理(ハセガワ ル リ) 谷下君恵(タニシタキミエ)<br>村松清子(ムラマツキヨコ) 松浦友香(マツウラユカ)<br>牧野麻美(マキノ アサミ) 赤堀真也(アカホリマサヤ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |

**授業概要**

成人の健康生活を促すための、検査・治療時、緩和ケア時の看護技術を習得する。
成人看護学実習時に学習が深化するよう、事前に事例を提示し、各臨床看護での学びと連動させ、状況に応じた判断力や実践的な技術を習得する。

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 周手術期に必要な看護技術① | | 演習 | 事前課題 |
| 2 | 周手術期に必要な看護技術② | | 演習 | |
| 3 | 術後患者の看護(フィジカルアセスメント)① | | 演習 | |
| 4 | 術後患者の看護(フィジカルアセスメント)② | | 演習 | |
| 5 | 事例患者の理解(患者になりきろう)① | | 演習 | |
| 6 | 事例患者の理解(患者になりきろう)② | 伊藤 | 演習 | |
| 7 | 事例患者の理解(患者になりきろう)③ | | 演習 | |
| 8 | 事例患者の援助技術① | | 演習 | |
| 9 | 事例患者の援助技術② | | 演習 | |
| 10 | 事例患者の援助技術③ | | 演習 | |
| 11 | 事例患者の援助技術④ | | 演習 | 技術確認 |
| 12 | 患者の看護を考える① | | 演習 | |
| 13 | 患者の看護を考える② | 野中 | 演習 | |
| 14 | 患者の看護を考える③ | | 演習 | |
| 15 | 患者の看護を考える④ | | 演習 | 課題提出 |

備考
※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなる。
※レポート等課題の提出が期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる。欠席の場合は、0点とする。
※状況により、各回数が前後する場合がある。

**評価**

授業時間の2／3以上の出席で評価対象となる
評価方法:講義中の態度、レポート課題、リフレクション等の提出状況、演習内の技術確認により評価する。
※再(追)試験は実施しない予定

**使用テキスト**

| | |
|---|---|
| 成人看護技術 | 南江堂 |
| 成人看護技術 がん・ターミナル | メヂカルフレンド社 |
| 完全版臨床基礎看護技術ガイド | 照林社 |
| 看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス | インターメディカ |
| 糖尿病の手引き | 南江堂 |
| 急性期看護Ⅰ | 南江堂 |
| 急性期看護Ⅱ | 南江堂 |
| 簡単マスター心電図 | 照林社 |

成人看護学概論、成人臨床看護Ⅰ～Ⅳで使用したテキスト、ならびに、紹介した文献や資料講義ノートなど

**参考図書**

| | |
|---|---|
| 基礎看護技術 | 南江堂 |

| 科目 | 老年看護生活援助論<br>Geriatric Nursing Skills of Assisting Daily Living | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 内山由美(ウチヤマ ユミ)<br>香川紋己(カガワ アヤコ)<br>シニアクラブ袋井市(フクロイシ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | |
|---|---|
| | 加齢により様々な影響を受けている老年者が、健康的かつ自立・自律した生活を継続できるための援助について考え、その具体的な方法を学ぶ。また、老年者によく現れる特徴的な症状について、その病態と加齢現象との関連を学び、老年症候群を理解する。 |

| 回 | 学習内容と成果 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 科目オリエンテーション、グループワーク | GW | |
| 2 | 健康的な老年者の理解　(1)老年者を招いての交流授業 | 演習 | レポート課題 |
| 3 | (2)意見交換 | GW | |
| 4 | 老年症候群の理解　(1)老年症候群とは | 講義 | |
| 5 | (2)転倒しやすい様々な理由 | 講義 | |
| 6 | (3)ホメオスタシスの不適応 | 講義 | |
| 7 | (4)経口摂取は老年者の生きがい | 講義 | |
| 8 | 老年看護における生活援助の実際　(0)グループワーク | GW | |
| 9 | (1)活動・運動 | GW発表 | |
| 10 | (2)清潔・整容 | GW発表 | |
| 11 | (3)睡眠・休息 | GW発表 | |
| 12 | (4)排泄 | GW発表 | |
| 13 | (5)食事・栄養 | GW発表 | |
| 14 | (6)まとめ | 講義 | |
| 15 | 袋井市の高齢者支援事業について | 講義 | 外部講師 |

※開講前(春季休暇)の課題は、上記のGW発表のテーマについてのレポートとする
※GW発表は、各グループの担当テーマについて各自の春季課題を用い、メンバー間で協力して発表までに資料を作成すること

| 評価 | |
|---|---|
| | 講義時間の2／3以上の出席をもって評価対象とする<br>春季課題、演習レポート、GW発表、定期試験により評価する(受講態度も加味する) |

| 使用テキスト | | |
|---|---|---|
| | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 | 医学書院 |
| | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 | 医学書院 |
| | 生活機能からみた老年看護過程 | 医学書院 |

| 参考図書 | | |
|---|---|---|
| | 日常生活行動からみるヘルスアセスメント | 日本看護協会出版会 |
| | 看護がみえるvol.4　看護過程の展開 | MEDIC MEDIA |
| | 根拠と事故防止からみた老年看護技術 | 医学書院 |

| 科目 | 老年看護機能障害別援助論<br>Geriatric Nursing of Functional Disorder Care | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 内山由美(ウチヤマ ユミ)　田森智美(タモリ トモミ)<br>松山佳奈(マツヤマ カナ)　三倉祐美子(ミクラ ユミコ)<br>大石真由美(オオイシ マユミ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

**授業概要**

老年者が罹患しやすい疾患の病態・治療とその際に必要な看護について、加齢現象と関連づけて学ぶ。老年者が余儀なくされる生活変容のために必要な援助について、家族への支援や他職種の連携を視野に入れて考えたい。
人生の最終段階を迎えた老年者が、障害を持ちつつもその人らしい生活が送れることの意味、また老年者のQOLについて考えられるよう学習する。

| 回 | 学習内容と成果 | 方法 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 脳梗塞患者の看護　病態・治療・看護 | 講義 | 小テスト |
| 2 | リハビリテーションを受ける老年者の看護 | 講義 | 外部講師 |
| 3 | 大腿骨頸部骨折患者の看護　病態・治療・看護 | 講義 | 小テスト |
| 4 | 手術・検査を受ける老年者の看護 | GW | |
| 5 | パーキンソン病患者の看護　病態・治療・看護 | 講義 | 小テスト |
| 6 | 長期臥床による廃用症候群の看護 | GW | |
| 7 | 慢性心不全患者の看護　病態・治療・看護 | 講義 | 外部講師 |
| 8 | 薬物療法を受ける老年者の看護 | GW | 小テスト |
| 9 | 慢性閉塞性肺疾患患者の看護　病態・治療・看護 | 講義 | 小テスト |
| 10 | 終末期にある老年者の看護 | GW | |
| 11 | 認知症のある老年者の看護　病態・治療・看護(1) | GW | |
| 12 | 病態・治療・看護(2) | 講義 | 外部講師 |
| 13 | 事例から考える | GW | 小テスト |
| 14 | 老年看護の視点から見たプライマリ・ケアとは | 講義 | 外部講師 |
| 15 | 老年者のリスクマネジメント | 講義 | |

※開講前(夏季休暇)の課題は、上記のGW発表のテーマについてのレポートとする
※GW発表は、各グループの担当テーマについて各自の夏季課題を用い、メンバー間で協力して発表までに資料を作成すること

**評価**

講義時間の2／3以上の出席をもって評価対象とする
夏季課題、GW発表、定期試験により評価する(受講態度も加味する)

**使用テキスト**

| | |
|---|---|
| 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論 | 医学書院 |
| 生活機能からみた老年看護過程 | 医学書院 |

**参考図書**

| | |
|---|---|
| 日常生活行動からみるヘルスアセスメント | 日本看護協会出版会 |
| 根拠と事故防止からみた老年看護技術 | 医学書院 |
| 看護技術プラクティス | 学研 |
| 成人看護学のテキスト | |

| 科目 | 老年看護技術演習<br>Geriatric Nursing Skills Seminar | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 太田(オオタ) 朋絵(トモエ)<br>松下(マツシタ) 亜美(アミ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |

**授業概要**

老年看護を実施するにあたり、老年者を不健康状態に傾かせる加齢的変化、起こりうる症状・疾患について事例を用いて的確にアセスメントし、ケアを実践する方法について学習する。さらに、患者や家族の状況を考慮したケアの内容や方法、制度等の社会資源について考え、その必要性を理解する。

| 回 | 学習内容と成果 | | 方法 | 場所 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 老年看護技術演習オリエンテーション | 松下 | 講義 | 教室 |
| 2 | | | 講義 | 教室 |
| 3 | 老年看護再考、老年看護過程 | | 講義 | 教室 |
| 4 | | 太田 | 講義 | 教室 |
| 5 | 関連図①発表、検討会 | | 演習 | 教室 |
| 6 | | | 演習 | 図書室 |
| 7 | 生活アセスメント | | 演習 | 図書室 |
| 8 | | | 演習 | 図書室 |
| 9 | 関連図②発表、検討会 | | 演習 | 教室 |
| 10 | 看護計画の立案 | 松下 | 演習 | 図書室 |
| 11 | | | 演習 | 図書室 |
| 12 | | | 演習 | 実習室 |
| 13 | 看護ケアの実践 | | 演習 | 実習室 |
| 14 | | | 演習 | 実習室 |
| 15 | | | 演習 | 実習室 |

備考
※受講・演習態度が著しく悪い場合は、減点扱いとする
※ノート・レポートの提出が期限を過ぎた場合は、減点扱いとする

**評価**

講義時間の2／3以上の出席をもって評価対象とする
出席時間、受講態度、プレゼンテーション、ノートの提出で評価をする

**使用テキスト**

| | |
|---|---|
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 | 医学書院 |
| 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 | 医学書院 |
| 生活機能からみた老年看護過程 | 医学書院 |

**参考図書**

| | |
|---|---|
| 日常生活行動からみるヘルスアセスメント | 日本看護協会出版会 |
| 看護がみえるvol.4 看護過程の展開 | MEDIC MEDIA |
| 根拠と事故防止からみた老年看護技術 | 医学書院 |

| 科目 | 小児発達論<br>Pediatric Development | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(15時間) | 担当教員 | 松浦朋代（マツウラ トモヨ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 前期 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 成長・発達を助長する援助を考えるため、成長・発達段階の特性および成長・発達に影響を及ぼす因子を理解する。 |

| 回 | 授業計画 | | 方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 小児の成長と発達 | 1)こどもとは<br>2)小児期の区分<br>3)成長・発達とは<br>4)成長・発達の原則<br>5)成長・発達に影響する因子 | グループワークやDVDなどを用いて行う。 |
| 2 | | 6)形態的成長<br>7)精神・運動機能の発達<br>8)心理・社会的発達<br>9)性の発達 | |
| 3 | | 10)成長評価<br>11)発達評価<br>12)機能評価 | |
| 4 | | 13)発達の諸理論 | |
| 5 | | 14)日常生活習慣の発達<br>睡眠・食事・排泄・遊び | |
| 6 | 2 小児の栄養 | 1)子どもにとっての栄養の意義<br>2)発達段階別の子どもの栄養 | |
| 7 | 3 小児を取り巻く環境 | 1)家族から地域社会へ<br>2)小児と家族の諸統計 | |
| 8 | 4 まとめ | | 国家試験対策 |

| | |
|---|---|
| 備考 | 進度等により、授業の内容・順番については、変更することがある。 |
| 評価 | 講義時間の2/3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:課題提出, 定期試験, 出席状況, 受講態度等総合して評価する。 |
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版 |
| 参考図書 | 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会<br>他、講義中、随時紹介する。 |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 小児臨床看護総論<br>Introduction to Pediatric Clinical Nursing | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) | 担当教員 | 山下泰平(ヤマシタ タイヘイ) CLS<br>特別支援学校教員(トクベツ シエン ガッコウ キョウイン) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 小児の特性と小児看護の特徴を理解すると共に様々な状況におかれている小児と家族の特性を理解し、その看護を学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 備考 |
|---|---|---|
| 1 | 1　小児看護の特徴と理念　1)子ども観の変遷<br>2)小児看護の対象・変遷・特徴と役割 | 講義やグループワーク |
| 2 | 2　子どもの最善の利益を守るかかわり<br>3　小児と社会を取り巻く環境　1)法と施策<br>2)家族のアセスメント | |
| 3 | 3)学校保健安全法<br>4)予防接種法<br>5)小児の虐待 | |
| 4 | 4　疾病・傷害をもつ小児と家族の看護<br>1)小児の疾病の特徴・症状別看護<br>2)疾病・傷害が小児と家族に与える影響と看護 | |
| 5 | 3)外来における小児と家族の看護 | |
| 6 | 4)検査・処置・手術を受ける小児と家族の看護 | |
| 7 | 5)急性期にある小児と家族の看護 | |
| 8 | 6)慢性期にある小児と家族の看護 | |
| 9 | 7)在宅における小児と家族の看護 | |
| 10 | 8)災害時の小児と家族の看護 | |
| 11 | 5　生活制限のある小児と家族の看護<br>1)隔離中の小児と家族の看護 | |
| 12 | 2)活動制限のある小児と家族の看護 | |
| 13 | 6　障害のある小児と家族の看護・・・・・・・・・・・・・・・・・県立袋井特別支援学校教員 | 外部講師 |
| 14 | 7　小児の心理的混乱とプレパレーション・・・・・・・・・・・チャイルドライフスペシャリス | 外部講師 |
| 15 | 8　まとめ | 国家試験対策 |

| 評価 | 講義時間の2/3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:課題提出，定期試験，出席状況，受講態度等総合して評価する。 |
|---|---|
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版 |
| 参考図書 | 発達段階からみた小児看護過程　医学書院<br>その他　講義中、随時紹介する。 |

| 科目 | 小児臨床看護<br>Pediatric Clinical Nursing | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 松浦朋代(マツウラ トモヨ)　串山めぐみ(クシヤマ)<br>足代真由美(アジロ マユミ)　奥村千代(オクムラ チヨ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | あらゆる健康段階にある小児と家族の特性を理解し、その看護をプロジェクト学習を通して学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 小児の病気の症状について　1)不機嫌・啼泣　2)発熱　3)嘔吐　4)下痢<br>5)脱水　6)けいれん　7)子どもの事故　8)乳幼児の意識レベル　9)溺水<br>10)救急蘇生　11)熱傷 | 講義 | |
| 2 | | 講義・演習 | |
| 3 | | 発表 | |
| 4 | アレルギーの子どもと家族の理解 | 講義 | 外部講師 |
| 5 | 急性期・周手術期・慢性期・終末期にある子どもと家族の看護<br>救急処置が必要な小児と家族の看護<br>事例の子どもの発達や疾患の理解をし、家族にも注目した看護介入についてプロジェクト学習をしていく。 | 講義 | |
| 6 | | 講義 | 発表 |
| 7 | | 講義・演習 | |
| 8 | | 講義・演習 | |
| 9 | | 講義・演習 | |
| 10 | 川崎病に罹患した小児と家族の看護① | 講義 | 外部講師 |
| 11 | 事例の子どもの看護について発表の準備をする | 講義・演習 | |
| 12 | 川崎病に罹患した小児と家族の看護② | 講義 | 外部講師 |
| 13 | 各病期における看護について発表(事例) | 発表 | |
| 14 | 各病期における看護についてまとめ | 講義 | |
| 15 | 事例のまとめと成長確認 | 講義 | 課題提出 |

| 備考 | 進度等により、授業の内容・順番については、変更することがある。 |
|---|---|
| 評価 | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法:講義中の態度　課題提出状況、期末試験結果により評価する |
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版 |
| 参考図書 | 発達段階からみた小児看護過程　医学書院<br>その他、参考図書は授業のなかで随時紹介していく。 |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 小児看護技術演習<br>Pediatric Nursing Skills Seminar | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 松浦朋代（マツウラ トモヨ）<br>山下泰平（ヤマシタタイヘイ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | 小児の特性をふまえた小児看護に必要な基礎看護技術を学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 |
|---|---|---|
| 1 | 抱っこ・おんぶ、食事 | 講義・演習 |
| 2 | 清潔 | 講義・演習 |
| 3 | 身体計測 | 講義・演習 |
| 4 | 与薬（薬物動態・輸液療法） | 講義・演習 |
| 5 | 食事（離乳食メニュー検討） | 講義・グループワーク |
| 6 | 技術チェック（身体計測・清潔） | 技術チェック |
| 7 | 食事（離乳食調理） | 調理実習 |
| 8 | バイタルサイン測定 | 講義・演習 |
| 9 | 技術チェック（輸液ポンプ・バイタルサイン測定） | 技術チェック |
| 10 | 心肺蘇生・誤飲事故の援助 | 講義・演習 |
| 11 | 検体採取 | 講義・演習 |
| 12 | 酸素吸入・吸引 | 講義・演習 |
| 13 | 与薬（内服等） | 講義・演習 |
| 14 | 遊び | 講義・グループワーク |
| 15 | プリパレーションを用いた援助 | グループ発表 |

| 評価 | 講義時間の2/3以上の出席で評価対象となる<br>評価方法：課題提出，技術チェック，出席状況，受講態度等総合して評価する。 |
|---|---|
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版 |
| 参考図書 | 発達段階からみた小児看護過程　医学書院<br>その他　講義中、随時紹介する。 |

| 科目 | 母性対象論<br>Understanding Maternal-child subjects | 単位数（時間） | 1単位（15時間） | 担当教員 | 近藤由美（コンドウ ユミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 母性および母性看護や母性看護に関わる概念を学び、母性看護の対象特性、母性看護の変遷と現況、取り巻く環境を理解する。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 科目ガイダンス<br>1　1）母性とは？親になるとは？ | 講義 | 課題 |
| 2 | 1）母性とは？親になるとは？ | 講義 | 課題 |
| 3 | 2）母性の概念 | 講義 | 課題 |
| 4 | 3）母性看護の概念 | 講義 | 課題 |
| 5 | 2　1）母性看護の対象特性 | 講義 | 課題 |
| 6 | 2）母性と家族 | 講義 | 課題 |
| 7 | 3　1）母性看護の変遷<br>2）母子保健の動向、法律、施策 | 講義 | 課題 |
| 8 | 3）母性を取り巻く環境 | 講義 | |

備考
＊　1回目の授業で科目ガイダンスを実施予定。
＊　授業には主体的に参加し、反応を示す。（授業内の発表、課題は評価の対象となる。）
＊　参加態度が悪い場合（許可なく携帯電話を使用、私語、居眠り、欠席など）は欠課または減点の対象となる。
＊　講義ノートは授業の開始までに必要内容を準備して臨む。

| 評価 | 授業内の発表、授業態度、課題、演習の成果物（30点）<br>筆記試験（70点） |
|---|---|
| 使用テキスト | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学1　医学書院.<br>森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学2　医学書院.<br>小西恵美子：看護倫理　南江堂<br>国民衛生の動向　厚生労働統計協会<br>看護法令要覧　日本看護協会出版会 |
| 参考図書 | 講義内で紹介 |

専門分野　Ⅱ

| 科目 | 母性の健康と看護<br>Maternal Health and Nursing | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 伊藤和代（イトウ カズヨ）<br>鈴木紗有香（スズキ サユカ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

**授業概要**

女性のライフステージ各期の特性と看護およびリプロダクティブヘルスケアを学び、
マタニティサイクルにおける妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理を理解する。

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト・課題 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 女性のライフステージ（概要） | 鈴木紗 | 講義・ワーク | 課題あり |
| 2 | 女性のライフステージ（思春期、成熟期、更年期、老年期の特性） | | 講義・ワーク | |
| 3 | リプロダクティブヘルスケア（女性を取り巻く諸問題と看護） | | 講義・ワーク | |
| 4 | リプロダクティブヘルスケア | | 講義・ワーク | |
| 5 | リプロダクティブヘルスケア | | 講義・ワーク | |
| 6 | リプロダクティブヘルスケア（実践編①） | 伊藤 | 講義・ワーク | |
| 7 | リプロダクティブヘルスケア（実践編②） | | 講義・ワーク | |
| 8 | 妊娠期の生理① | 鈴木紗 | 講義・ワーク | 課題あり |
| 9 | 妊娠期の生理② | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 10 | 分娩期の生理① | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 11 | 分娩期の生理② | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 12 | 産褥期の生理① | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 13 | 産褥期の生理② | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 14 | 新生児期の生理① | | 講義・ワーク | 課題・小テストあり |
| 15 | 新生児期の生理② | | 講義・ワーク | 課題最終提出・小テストあり |

備考
※著しく受講態度が悪い場合（私語、居眠り）は欠席扱いとなる。
※課題の未提出・遅れ・計画通り未実施・他人と類似した内容、ワークに参加できないなどは減点対象となる。
※小テストは、定期試験の配点に含む。

**評価**

講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる。
評価方法:講義中の態度・発表・課題提出状況、定期試験結果により評価する。

**使用テキスト**

森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学1　医学書院.
森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学2　医学書院.
国民衛生の動向（第1～7回目の講義で使用）　厚生労働統計協会.

**参考図書**

井上　裕美、竹内　正人他：病気がみえる　産科　メディックメディア.
古川亮子、市江和子：母性・小児実習ぜんぶガイド　照林社.
佐世正勝、石村由利子：ウェルネスからみた母性看護過程　医学書院.
松岡　隆：母体・胎児・新生児の生理と病態　メディカ出版.
国民衛生の動向　厚生労働統計協会.

| 科目 | 周産期の看護<br>Perinatal　Nursing | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) | 担当教員 | 松浦香子（マツウラ キョウコ）　伊藤葉子（イトウ ヨウコ）<br>河合智子（カワイ トモコ）　村松峰花（ムラマツ ミネカ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | マタニティサイクルが正常に経過するための看護および健康障害のある対象の看護を学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | | 方法 | テスト・課題 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 妊娠期の看護（妊婦の看護の原則、保健指導、日常生活への援助） | 伊藤 | 講義 | |
| 2 | 妊娠期の看護(身体面・心理社会面、出産・育児の準備への援助) | | 講義 | |
| 3 | 分娩期の看護（産婦の看護の原則、入院時の看護） | | 講義 | |
| 4 | 分娩期の看護（分娩各期の看護） | | 講義 | |
| 5 | 産褥期の看護(退行性・進行性変化への援助) | 村松 | 講義 | |
| 6 | 産褥期の看護（日常生活への援助、継続看護と健康教育） | | 講義 | |
| 7 | 新生児期の看護(新生児看護の原則、新生児出生直後の看護) | 河合 | 講義 | |
| 8 | 新生児期の看護（基本看護） | | 講義 | |
| 9 | 新生児期の看護（基本看護） | | 講義 | |
| 10 | 妊娠期の異常と看護①（流・早産、感染症） | 松浦 | 講義 | |
| 11 | 妊娠期の異常と看護②（妊娠糖尿病、出生前診断、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群） | | 講義 | 小テストあり |
| 12 | 分娩期の異常と看護（前期破水（破水の種類）、産科出血、胎盤機能不全、帝王切開術後） | | 講義 | 小テストあり |
| 13 | 産褥期の異常と看護（肺塞栓、子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後うつ、死産、障害をもつ新生児を出産した親） | | 講義 | 小テストあり |
| 14 | 新生児期の異常と看護（新生児の健康逸脱　早産児、低出生体重児、先天異常、障害をもつ新生児） | | 講義 | 小テストあり |
| 15 | 1～5回までのまとめ（国試問題） | | 講義 | 小テストあり |

備考
※著しく受講態度が悪い場合（私語、居眠り）は欠席扱いとなる。
※小テストは、定期試験の配点には含まれない。

| 評価 | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる。<br>評価方法:講義中の態度・発表・定期試験結果により評価する。 |
|---|---|

| 使用テキスト | | |
|---|---|---|
| | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学1 | 医学書院. |
| | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学2 | 医学書院. |

| 参考図書 | | |
|---|---|---|
| | 井上　裕美、竹内　正人他：病気がみえる　産科 | メディックメディア. |
| | 佐世正勝、石村由利子：ウェルネスからみた母性看護過程 | 医学書院. |
| | 松岡　隆：母体・胎児・新生児の生理と病態 | メディカ出版. |

専門分野　Ⅱ

| 科目 | 母性看護技術演習<br>Maternal-Child Nursing Care Seminar | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | スズキ 鈴木　紗有香（サユカ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | マタニティサイクルの健康維持のために必要な技術を習得する。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト・課題 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事例から考えてみよう<br>妊婦さんの状況からどのような援助、指導が必要か考えてみよう | 演習・ワーク | 課題あり |
| 2 | 妊婦健診で何をみるの？<br>胎児が順調に成長しているかを判断するための看護技術<br>（レオポルド触診法・子宮底長測定・胎児心音聴取）を学ぼう | 演習 | 課題あり |
| 3 | 妊婦さん、産婦さんってこんなに大変！！<br>妊婦体験を通して必要な看護技術（産痛緩和・呼吸法）を学ぼう | 演習 | 課題あり |
| 4 | 産褥期に必要な看護技術を学ぼう<br>～授乳援助・進行性変化、退行性変化の観察～ | 演習・ワーク | 課題あり |
| 5 | 新生児期に必要な看護技術を学ぼう　デモンストレーション編<br>～出生直後の看護、アプガースコア～ | 演習・ワーク | 課題あり |
| 6 | 出生後の看護技術を学ぼう　　アプガースコア・出生直後～翌日以降のバイタルサイン、観察・アセスメント）実践編 | 演習・ワーク | 課題あり |
| 7 | 「沐浴」・「ドライバス」<br>（衣服の着脱・おむつの装着・清潔援助前の観察・アセスメント・報告） | 演習 | 課題あり |
| 8 | 「沐浴」試験 | 技術試験 | 技術試験 |
| 9 | 事例から看護展開してみよう①　　情報収集・データベース | 演習 | 課題あり |
| 10 | 事例から看護展開してみよう②　強み、全体像 | 演習 | 課題あり |
| 11 | 事例から看護展開してみよう③　クリニカルパス、推論、看護診断抽出 | 演習・ワーク | 課題あり |
| 12 | 事例から看護展開してみよう④　優先順位　看護計画立案 | 演習・ワーク | 課題あり |
| 13 | 事例から看護展開してみよう⑤　SOAP記録・リフレクション | 演習 | 課題あり |
| 14 | 褥婦さんの退院後の生活に必要な指導案をグループで考えよう | 演習・ワーク | 課題あり |
| 15 | 褥婦さんに必要な指導案を発表してみんなで共有しよう | 演習・ワーク | |

備考
※著しく受講態度が悪い場合（私語、居眠り）は欠席扱いとなる。
※身だしなみが整っていない場合（髪の色、まとめ方、靴下の色、ピアスなど）は欠課扱いとなる。
※課題の未提出・遅れ・計画通り未実施・他人と類似した内容、ワークに参加できないなどは減点対象となる。

| 評価 | 講義時間の2／3以上の出席で評価対象となる。<br>評価方法:演習中の態度・発表 ・課題提出状況、実技試験結果により評価する。<br>配点の内訳、課題内容については、開講時に配布する別紙参照。 |
|---|---|

| 使用テキスト | | |
|---|---|---|
| | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学1 | 医学書院. |
| | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学2 | 医学書院. |
| | NANDA-Ⅰ　看護診断　定義と分類　2021-2023 | 医学書院. |

| 参考図書 | | |
|---|---|---|
| | 井上　裕美、竹内　正人他：病気がみえる　産科 | メディックメディア. |
| | 古川亮子、市江和子：母性・小児実習ぜんぶガイド | 照林社. |
| | 佐世正勝、石村由利子：ウェルネスからみた母性看護過程 | 医学書院. |
| | 松岡　隆：母体・胎児・新生児の生理と病態 | メディカ出版. |
| | 前原　澄子：新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ | 中央法規. |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 精神看護学概論<br>Introduction to Psychiatric Nursing | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(15時間) | 担当教員 | 松尾(マツオ)　浩司(コウジ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 精神の機能と構造を理解し、心を病むことが個人の生活または社会に及ぼす影響を考える。また、社会の中で起こっている精神健康上の諸問題を知り、精神障害のとらえ方について学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心のケアと現代社会　精神看護学の基本的な考え方 | 講義 | 事例紹介<br>確認テスト |
| 2 | 精神の健康とは、危機介入とストレス理論 | 講義 | 確認テスト |
| 3 | 人間の心の諸活動 | 講義 | 確認テスト<br>課題1提出 |
| 4 | 心の仕組みと人格の発達 | 講義 | 確認テスト |
| 5 | 様々な理論家について | 講義 | 確認テスト |
| 6 | 人間関係としての家族、集団<br>(人格形成とその後の人生への影響) | 講義 | 確認テスト |
| 7 | 精神を病むことと生きること | 講義 | DVD視聴あり |
| 8 | 精神保健福祉の変遷について | 講義.ワーク | 確認テスト<br>課題2提出 |

| 備考 | ＊初講時、事前にテキストの第1章を読み授業に参加する<br>＊課題はA4ノートに行うので各自準備する<br>＊課題1.2提出について、期限に遅れた場合原則として提出が不可能となる |
|---|---|
| 授業評価 | 授業態度、課題レポート、筆記試験、ルーブリックなどにより総合的に判断する。<br>(それぞれの点数配分については授業内で提示する)<br>45分未満の欠課は-1点、欠席は-2点<br>提出遅れの場合は、その提出物の点数は0点、未提出の場合は、0点と-1点 |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　　医学書院 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 精神看護援助論Ⅰ<br>Psychiatric Nursing Care Seminar Ⅰ | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 長倉里美（ナガクラ サトミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 精神医療における患者への処遇、偏見・差別など、精神障害とその治療に関わる社会の歴史と文化のつながり及び精神保健福祉の変遷についての理解を深める。また、精神障害を有する人達がおかれている現状を理解し、精神看護の専門性や役割について学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事例紹介、精神障害と治療の歴史 | 講義.ワーク | |
| 2 | 精神障害と法制度 | 講義.ワーク | |
| 3 | 精神保健福祉活動 | 講義.ワーク | |
| 4 | 社会の中での精神障害 | 講義.ワーク | 確認テスト、ワーク評価表① |
| 5 | さまざまな精神症状（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶への影響）① | 講義 | 確認テスト |
| 6 | さまざまな精神症状（思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶への影響）② | 講義 | 確認テスト |
| 7 | 治療的環境と看護師の役割 | 講義 | 確認テスト |
| 8 | 精神科におけるさまざまな治療と看護師の役割①（身体療法） | 講義.ワーク | |
| 9 | 精神科におけるさまざまな治療と看護師の役割②（精神療法） | 講義.ワーク | |
| 10 | 精神科におけるさまざまな治療と看護師の役割③（行動療法） | 講義.ワーク | |
| 11 | 精神科におけるさまざまな治療と看護師の役割④（環境、社会療法） | 講義.ワーク | |
| 12 | 精神科リハビリテーション（入院中からのリハビリテーション） | 講義.ワーク | |
| 13 | 地域で暮らす人を支える（社会復帰支援） | 講義.ワーク | ワーク評価表② |
| 14 | 精神科以外での精神看護（コミュニティにおける精神保健・精神看護） | 講義 | |
| 15 | 精神科以外での精神看護（身体疾患、看護カウンセリング、リエゾン看護） | 講義 | レポート提出 |

| 備考 | ＊課題提出について、期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる<br>＊別に提示するグループワーク評価表を熟読しワークに参加する<br>＊テキスト「精神看護の基礎」の【7章社会の中の精神障害】を熟読し初講に臨むこと |
|---|---|
| 授業評価 | 授業態度、課題レポート、筆記試験、ルーブリックなどにより総合的に判断する。<br>（それぞれの点数配分については授業内で提示する）<br>提出期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる。 |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学[2]　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術　メヂカルフレンド社 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 精神看護援助論Ⅱ<br>Psychiatric Nursing Care Seminar Ⅱ | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 松尾（マツオ） 浩司（コウジ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | 精神障害を有する人のセルフケアや生活の質を高めるために必要な専門知識及び精神症状に合わせた看護について学ぶ。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 精神科看護の実際 | 講義 | |
| 2 | 主な精神症状とその看護①（幻覚妄想状態） | 講義 | 確認テスト① |
| 3 | 主な精神症状とその看護②（抑うつ状態、躁状態、不安状態） | 講義 | 確認テスト② |
| 4 | 主な精神症状とその看護③（無為、自閉、拒絶、興奮） | 講義 | 確認テスト③ |
| 5 | 主な精神症状とその看護④（せん妄、昏迷、強迫症状他） | 講義 | 確認テスト④ |
| 6 | 主な精神症状とその看護⑤（安全を守る） | 講義 | 確認テスト⑤ |
| 7 | 精神疾患の特性と看護（統合失調症） | グループワーク | 確認テスト⑥ |
| 8 | 精神疾患の特性と看護（気分（感情）障害） | グループワーク | 資料提出 |
| 9 | 精神疾患の特性と看護（摂食障害） | グループワーク | 資料提出 |
| 10 | 精神疾患の特性と看護（アルコール依存症） | グループワーク | 資料提出 |
| 11 | 精神疾患の特性と看護（強迫性障害） | グループワーク | 資料提出 |
| 12 | 精神疾患の特性と看護（発達障害） | グループワーク | 資料提出 |
| 13 | 精神疾患の特性と看護（グループワーク発表） | グループワーク | 資料提出 |
| 14 | 精神疾患の特性と看護（グループワーク発表） | グループワーク | |
| 15 | 精神疾患の特性と看護（グループワーク発表） | グループワーク | レポート提出 |

| 備考 | ※配布された資料は全て熟読し、内容を理解して授業に臨むこと<br>※著しく受講態度が悪い場合、身だしなみが整っていない場合は欠席扱いとなる<br>※提出物に関して、期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる |
|---|---|
| 評価 | 授業態度、課題レポート、筆記試験、ルーブリックなどにより総合的に判断する。<br>（それぞれの点数配分については授業内で提示する）<br>45分未満の結果は-1点、欠席は-2点<br>提出遅れの場合は、その提出物の点数は0点、未提出の場合は、0点と-1点 |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[2]　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術　メヂカルフレンド社 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 精神看護技術演習<br>Psychiatric Nursing Skills Seminar | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 長倉里美(ナガクラ サトミ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | 精神障害を有し、セルフケア不足のある人に対する看護展開の方法及び対象理解・治療的対人関係技術など精神看護に必要な技能を学ぶ。さらに集団精神療法(活動プログラム)の体験を通して集団に対するアプローチのポイントを理解する。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 精神症状のある患者を捉える視点(事例紹介) | 演習 | |
| 2 | 精神症状のある患者への看護介入(統合失調症患者への対応実践) | 演習 | プロセスレコード |
| 3 | 精神症状のある患者への看護介入(うつ病患者への対応実践) | 演習 | プロセスレコード |
| 4 | 患者対応実践後プロセスレコード検討(統合失調症) | 演習 | |
| 5 | 患者対応実践後プロセスレコード検討(うつ病) | 演習 | |
| 6 | 集団精神療法(活動プログラム、SST)、レクリエーション企画 | 講義.演習 | |
| 7 | レクリエーションポスター検討、準備① | 演習 | |
| 8 | レクリエーションポスター作製、発表準備② | 演習 | |
| 9 | レクリエーションの企画及びポスターのクラス内発表 | 演習 | |
| 10 | レクリエーションの企画及びポスターのクラス内発表とまとめ | 演習 | |
| 11 | 精神症状のある患者への看護介入についてリフレクションする | 演習 | |
| 12 | 精神症状のある患者への看護介入のリフレクションを活用し、行動計画を考える | 演習 | スクールタクト |
| 13 | 精神症状のある患者へのケア及び全体像を考える | 演習 | スクールタクト |
| 14 | 精神症状のある患者へのケアを考える①グループ内検討 | 演習 | スクールタクト |
| 15 | 精神症状のある患者へのケアを考える②グループ内発表とまとめ | 演習 | 評価表 |

| 備考 | 授業態度、課題レポート、筆記試験、ルーブリックなどにより総合的に判断する。<br>(それぞれの点数配分については授業内で提示する)<br>提出期限に遅れた場合、原則として提出が不可能となる。<br>※スクールタクトの利用・レクリエーション計画書については授業内に説明する |
|---|---|
| 評価 | 2/3以上の出席を基に授業時に提示する評価規準により行う |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[2]　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術　メヂカルフレンド社 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ<br>Adult Nursing Training<br>Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 単位数<br>(時間) | 6単位　270時間 | 担当教員 | 櫻井(サクライ)　志保(シホ)<br>野中(ノナカ)真紀(マキ)　東原(ヒガシハラシン) 慎<br>他 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |
| 授業概要 | 成人看護学実習Ⅰ～Ⅲの3科目、各2単位90時間を実施する。<br><br>Ⅰ　周手術期にある対象の健康問題を解決するための看護を学ぶ。<br><br>Ⅱ　診察や検査、高度な治療を受けている対象者へのシャドウイングや援助を通し、対象者の捉え方や状況に応じた看護のありかたを考え、成人看護に対する知見を深める。<br><br>Ⅲ　その人らしさとは何かを考え続け、終末期に向かう患者の人生の最期の時を支えるQOL向上のための看護を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 2～3名の小グループ編成で実習する。<br>臨地実習は8日間とし、学内実習期間を1日とする。<br>成人看護学実習ⅠとⅢでは患者を複数名グループで受け持ち看護を展開する。<br>成人看護学実習Ⅱでは、手術室、重症室、外来(透析室を含む)でのシャドウイングや看護師と援助を行う。<br>看護基本技術、成人看護学習得技術については別紙の技術到達水準を参照する。2～3名の小グループ編成で実習する。 | | | | |
| 備考 | 実習準備<br>・実習要綱及び実習記録などを準備する。<br>・実習要綱を熟読する。<br>・実習担当教員と連絡をとる。 | | | | |
| 評価 | 実習要綱の内容に沿って、別紙評価表により評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 成人看護学概論、方法論Ⅰ～Ⅳ、成人看護技術演習で使用したテキスト、ならびに、紹介した文献や資料、講義ノート・資料など | | | | |
| 参考図書 | 解剖生理学、病態学、治療、検査、薬理などのテキストならびに資料など<br>今日の治療薬　　南江堂（アプリ版でも可） | | | | |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 老年看護学実習Ⅰ<br>Geriatric NursingTrainingⅠ | 単位数（時間） | 2単位（90時間） | 担当教員 | 内山由美（ウチヤマ ユミ）<br>太田朋絵（オオタ トモエ） 松下亜美（マツシタ アミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |
| 授業概要 | 老年期で、回復リハビリ期にある対象を受持ち、老年者に適した看護展開の実際を学ぶ。<br>老年者の退院後の生活について考えを視野に入れながら、チーム医療に参画する。 | | | | |
| 授業計画 | ≪実習1日目～8日目≫<br>初日：ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ<br>対象に適した看護の焦点・持てる力を見出す。<br>老年期にある対象へのゴールを目指し、チーム医療に参画する。<br>計画を立案し、実施・評価・修正した看護計画を実施する。<br>自己の看護や学びをリフレクションする。<br>臨床判断しながら、自分の立案した看護計画を実施し、評価および修正をする。<br>自己の看護や学びをリフレクションする。<br><br>≪実習9日目≫<br>自己の実践した看護を振り返り実習のまとめを発表する。<br><br>5～6名のグループで学習する。<br>患者一人を受け持ち看護を展開する。医療チームの一員として看護する。<br>臨地実習は8日間、学内実習1日間とする。 | | | | |
| 評価 | 別に記載する実習要綱の内容に沿って評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 老年看護学で使用したテキスト<br>成人看護学で使用したテキスト | | | | |
| 参考図書 | 薬剤・検査に関するテキスト | | | | |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 老年看護学実習Ⅱ<br>Geriatric NursingTrainingⅡ | 単位数（時間） | 2単位（90時間） | 担当教員 | 内山由美（ウチヤマ ユミ）<br>太田朋絵（オオタ トモエ） 松下亜美（マツシタ アミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |
| 授業概要 | 老年期にある対象を受持ち、老年者に適した看護展開の実際を学ぶ。<br>老年者の退院後の生活について考えを視野に入れながら、多職種と連携した看護を展開する。 | | | | |
| 授業計画 | ≪実習1日目～8日目≫<br>初日：オリエンテーション<br>対象に適した看護の焦点・持てる力を見出す。<br>一次計画を立案し、実施・評価・修正した看護計画を立案する。<br>自己の看護や学びをリフレクションする。<br>臨床判断しながら、自分の立案した看護計画を実施し、評価および修正をする。<br>自己の看護や学びをリフレクションする。<br>退院後の生活に着目しながら看護計画を修正し、退院にむけたケアプランを考える。<br>自己の看護や学びをリフレクションする。<br><br>≪実習9日目≫<br>自己の実践した看護を振り返り考察を発表する。<br><br>2～3名の小グループ編成で学習する。<br>患者一人を受け持ち看護を展開する。医療チームの一員として看護する。<br>臨地実習は8日間とし、学内実習を1日間とする。 | | | | |
| 評価 | 別に記載する実習要綱の内容に沿って評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 老年看護学で使用したテキスト<br>成人看護学で使用したテキスト | | | | |
| 参考図書 | 薬剤・検査に関するテキスト | | | | |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 小児看護学実習<br>Pediatric Nursing Training | 単位数<br>(時間) | 2単位<br>(90時間) | 担当教員 | 松浦朋代（マツウラ トモヨ）<br>山下泰平（ヤマシタ タイヘイ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |
| 授業概要 | 健康な小児および健康問題をもつ小児について知識・技術・態度を統合し、<br>看護の実際を学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 | 保育園実習　2日間<br>0～5歳児の保育の実際を通して発達段階および小児の特性を理解する。<br><br>特別支援学校実習　1日間<br>障害のある小児との関わりを通して小児の特性を知る。<br><br>小児科外来実習　1日間<br>外来受診を要する小児および家族を理解し、外来機能と役割を学ぶ。<br><br>病棟実習　4日間<br>入院生活をする小児と家族との関わりを通して、健康問題や入院が及ぼす影響を理解し、発達段階・健康問題の段階に応じた看護の実際を学ぶ。<br><br>学内実習　1日間<br>小児との関わりや各実習施設の学びを統合し、小児看護に ついて理解する。 | | | | |
| 評価 | 実習時間の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。<br>実習要綱の内容に沿って評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版<br>ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版 | | | | |
| 参考図書 | 発達段階からみた小児看護過程　医学書院<br>西本勝子・上野美代子・福島光子著：入院時の遊びと看護，医学書院<br>鴨下重彦・柳澤正義　監修：子どもの病気の地図帳，講談社<br>キャスリーンM. ピアス　編著：看護診断にもとづく小児看護ケアプラン第2版，医学書院 | | | | |

| 科目 | 母性看護学実習<br>Maternal-Child Nursing Training | 単位数<br>(時間) | 2単位<br>(90時間) | 担当教員 | 鈴木紗有香（スズキ サユカ）<br>松浦香子（マツウラ キョウコ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期<br>3年次　通年 | | |
| 授業概要 | 周産期にある母子とその家族を含む母性看護の対象の看護実践に必要な能力を養うことを目的とし全体論からの対象理解、援助過程の理解、および健康状態の評価に基づく対象特性を踏まえた援助を実践する。それらを通して母性看護の特性や生命の尊厳、母性観を深化発展させ、看護者の資質であるチームワーク力、コミュニケーションスキルを高め、ケアリングを実践していく。 | | | | |
| 授業計画 | ＜1週目、2週目＞<br>オリエンテーションを受け、外来・病棟において、妊娠期、産褥期、新生児期の看護、<br>外来通院している母性看護の対象の看護を看護師と共に実施またはシャドーイングする。<br>外来では妊婦を受け持ち、健康評価する。機会があれば分娩期の看護を看護師と共に実施またはシャドーイングする。<br>母子（褥婦と新生児）を受け持ち、クリニカルパスにそって健康評価し、個別的な援助を計画・実施・評価する。病院実習最終日は、評価面接を受ける。<br><br>＜実習最終日＞<br>最終日は学内実習にて実践した看護計画を考察し、まとめた内容を発表する。<br>その際、病棟指導者による助言を受ける。<br>事前学習で行った状況設定問題をグループメンバーで解説し合い、学びを深める。<br><br>＊実習スケジュールの詳細はオリエンテーション時に配布予定 | | | | |
| 評価 | 2／3以上の出席を基に別紙評価基準により行う。<br>ただし、実習前アンケートを事前に提出し、実習開始前にオリエンテーションを受けていること、留意事項を遵守している場合に限る。 | | | | |
| 使用テキスト | 森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学1　医学書院.<br>森　恵美他：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学2　医学書院.<br>NANDA-Ⅰ　看護診断　定義と分類　2021-2023　医学書院.<br>横尾京子他：ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術　メディカ出版 | | | | |
| 参考図書 | 井上　裕美、竹内　正人他：病気がみえる　産科　MEDIC　MEDIA.<br>前原　澄子：新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ　中央法規.<br>前原　澄子：新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ　中央法規. | | | | |

専門分野Ⅱ

| 科目 | 精神看護学実習<br>Psychiatric Nursing Training | 単位数<br>(時間) | 2単位<br>(90時間) | 担当教員 | 松尾浩司（マツオ コウジ）<br>長倉里美（ナガクラ サトミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期<br>3年次　通年 | | |
| 授業概要 | 精神障害を有する人への専門的な治療及び支援方法を理解し看護を実践する。<br>また、地域で生活する精神障害を有する人々の社会的現状とその支援方法を知り、継続看護の必要性と個別支援を考える態度を養う。<br>さらに、臨地実習の経験を活かし、学びを振り返り、他者に表現することで自己の看護観を深める。 | | | | |
| 授業計画 | ＜病 棟実習＞　　7日間<br>・精神障害を有する患者を受け持ち、自己の計画した看護援助を実践する。<br>・精神科病棟の特徴、治療、看護及び患者の特性を理解し患者に合った関わりをする。<br>・病棟の特性や患者層に合わせたレクリエーションの実践から集団精神療法とその看護について理解を深める。<br>・自己の看護実践や関わり（接近の方法や距離の取り方）を振り返り、自己の傾向を知るとともに対象理解に努める。<br><br>＜作業所等実習＞　1日間<br>・精神障害者を有する人々の社会的現状と地域で生活するための支援を知り看護の役割を考える。<br>・治療的コミュニケーション方法を利用し、地域で生活する精神障害を有する人々への接近方法や距離の取り方を実践するとともに対象理解に努める。<br><br>＜学内実習＞　　1日間<br>.臨地実習の学びを活かし、精神障害者に対する看護の共有や自己の考えを整理し、看護観を深める。<br>・精神障害者にも対応した地域包括ケアを踏まえた精神障害者への看護について検討し、発表する。 | | | | |
| 授業評価 | 別に提示する評価規準により行う | | | | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]　　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学[2]　　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる　精神看護技術　メヂカルフレンド社<br>仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス　　医歯薬出版（株） | | | | |
| 参考図書 | 適宜紹介する | | | | |

統合分野

| 科目 | 在宅看護概論<br>Introduction to Home Nursing | 単位数（時間） | 1単位（15時間） | 担当教員 | 木村弘美（キムラ ヒロミ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 在宅で生活しながら療養する人とその家族　生活支援を必要とする人々への看護の目的や必要性を理解し、在宅看護の特徴を把握する。そして対象者を取り巻く地域ケアシステムを理解し、他職種との協働・継続看護の重要性から看護職の役割を考える。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 在宅看護の概念　在宅看護とは | 講義 | |
| 2 | 在宅看護の変遷・制度 | 講義 | 1回目小テスト |
| 3 | 在宅療養者への看護活動 | 講義 | 2回目小テスト |
| 4 | 在宅看護の倫理と基本理念 | 講義 | 3回目小テスト |
| 5 | 在宅看護の対象 | 講義 | 4回目小テスト |
| 6 | 在宅看護の対象と在宅療養の成立要件 | 講義 | 5回目小テスト |
| 7 | 在宅ケアと在宅看護①（在宅チームケア） | 講義 | 6回目小テスト |
| 8 | 在宅ケアと在宅看護②（継続看護） | 講義 | 7回目小テスト |
| | | | |
| | | | |

備考
※受講態度が著しく悪い場合は、減点扱いとする
※レポートの提出が期限を過ぎた場合は、減点扱いとする

| 評価 | 授業態度、出席状況、各演習後レポート内容、レポート提出状況により総合的に判断する。 |
|---|---|

| 使用テキスト | 臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　地域医療を支えるケア　MCメディカ出版<br>臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　MCメディカ出版 |
|---|---|

| 参考図書 | 講義の中で随時紹介する |
|---|---|

統合分野

| 科目 | 在宅看護援助論Ⅰ<br>Home Nursing Care　Ⅰ | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 松野容子（マツノ ヨウコ）<br>中村昌樹（ナカムラ マサキ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 在宅看護の援助としての訪問看護活動について理解し、地域で生活している療養者と家族のアセスメント方法や対象の状況に応じた看護やケアマネジメントの方法を学習する。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 在宅療養者への看護活動　① | 講義 | ※初回講義で科目を通じて行う課題をお知らせする。 |
| 2 | 在宅療養者への看護活動　② | 講義 | |
| 3 | 病状病態の変化の予測と予防 | 講義 | |
| 4 | 生活のなかでおこる問題の予測と予防 | 講義 | |
| 5 | リスクマネジメント、看護の責務と在宅医療 | 講義 | |
| 6 | 訪問看護の実践・訪問看護ステーション | 講義 | |
| 7 | 訪問看護における看護過程の特徴　① | 講義 | |
| 8 | 訪問看護における看護過程の特徴　② | 講義 | |
| 9 | 訪問看護の記録・初回訪問 | 講義 | |
| 10 | 在宅ケアにおける連携・協働　① | 講義 | |
| 11 | 在宅ケアにおける連携・協働　②・・・・・・・・・・中村昌樹 | 講義 | |
| 12 | 在宅療養者の家族への援助　① | 講義 | |
| 13 | 在宅療養者の家族への援助　② | 講義 | |
| 14 | 在宅看護におけるケアマネジメント | 講義 | |
| 15 | 社会資源の実際 | 講義 | |

備考
※受講態度が著しく悪い場合は、減点扱いとする
※レポートの提出が期限を過ぎた場合は、評価不可能とする。

| 評価 | 授業態度、出席状況、各レポート内容、レポート提出状況により総合的に判断する。 |
|---|---|
| 使用テキスト | 臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　地域医療を支えるケア　MCメディカ出版<br>臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　MCメディカ出版 |
| 参考図書 | 講義の中で随時紹介する |

統合分野

| 科目 | 在宅看護援助論Ⅱ<br>Home Nursing Care Ⅱ | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) | 担当教員 | 木村弘美(キムラ ヒロミ)<br>村松元気(ムラマツ モトキ)(1組)<br>久野加世子(クノ カヨコ)(2組)<br>岡本律子(オカモト リツコ)・和田都子(ワダ ミヤコ)<br>外部講師 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 訪問看護の実際や看護援助の基本技術、日常生活の支援方法や医療処置管理の方法、在宅看護での特徴的な病状・状態別看護を学ぶ。 |

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基本技術①（在宅看護技術の特徴・コミュニケーション） | 講義・演習 | レポート |
| 2 | 基本技術②（観察技術） | 講義・演習 | レポート |
| 3 | 在宅における日常生活援助と医療処置管理の考え方 | 講義・演習 | レポート |
| 4 | 在宅における生活援助・医療管理(食事) | 講義・演習 | |
| 5 | 在宅における生活援助・医療管理(排泄) | 講義・演習 | |
| 6 | 在宅における状態別看護（脳梗塞事例：再発予防） | 講義 | |
| 7 | 在宅における状態別看護（認知症事例：薬物管理） | 講義 | |
| 8 | 在宅における状態別看護（褥瘡管理） | 講義 | 岡本律子 |
| 9 | 在宅におけるリハビリケア① | 講義 | 村松元気<br>永澤加世子 |
| 10 | 在宅におけるリハビリケア② | 講義 | 村松元気<br>永澤加世子 |
| 11 | 在宅における状態別看護（難病事例：対象理解） | 講義 | レポート |
| 12 | 在宅酸素療法・人工呼吸療療法の管理 | 講義・演習 | 外部講師<br>レポート |
| 13 | 終末期～見取りの看護（在宅ターミナルケアの考え方） | 講義 | |
| 14 | 終末期～見取りの看護（看護の実際） | 講義・演習 | 和田都子 |
| 15 | まとめ（医療保険・介護保険制度　他） | 講義・演習 | |

備考
※受講態度が著しく悪い場合は、減点扱いとする
※レポートの提出が期限を過ぎた場合は、減点扱いとする

| | |
|---|---|
| 評価 | 授業態度、出席状況、演習状況、各演習後レポート内容、レポート提出状況により総合的に判断する。 |
| 使用テキスト | 臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　地域医療を支えるケア　MCメディカ出版<br>臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　MCメディカ出版 |
| 参考図書 | 坂本すが　他：ビジュアル臨床看護技術ガイド　照林社<br>講義の中で随時紹介する |

統合分野

| 科目 | 在宅看護技術演習<br>Home Care Skills Seminar | 単位数<br>(時間) | 1単位<br>(30時間) | 担当教員 | 木村弘美(キムラ ヒロミ)　松野容子(マツノ ヨウコ)<br>増田昌行(マスダ マサユキ)　小宮山ひろみ(コミヤマ) |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| 授業概要 | 基礎看護学の技術をふまえ、在宅における日常生活援助・医療処置管理を対象の状況に合わせて実践するために必要な技術と態度を習得し、実施・評価できる能力を養う。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（情報の分類と分析） | 演習 | 教室 |
| 2 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（身体面アセスメント） | 演習 | 教室 |
| 3 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（その他アセスメント） | 演習 | 教室 |
| 4 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（関連図・看護問題の抽出） | 演習 | 教室 |
| 5 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（初回訪問演習計画） | 演習 | 教室 |
| 6 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（初回訪問演習リハーサル） | 演習 | 教室 |
| 7 | 脳梗塞事例について看護援助<br>（生活援助演習清潔　口腔ケア） | 演習 | 実習室<br>小宮山ひろみ |
| 8 | 脳梗塞事例について看護援助<br>（生活援助演習②活動・在宅リハビリ） | 演習 | 実習室<br>増田昌行 |
| 9 | 脳梗塞事例について看護援助（生活援助演習③初回訪問演習） | 演習 | 実習室 |
| 10 | 脳梗塞事例について看護援助（生活援助演習④褥瘡管理） | 演習 | 実習室 |
| 11 | 脳梗塞事例について看護過程の展開（まとめ・発表） | 発表 | 教室 |
| 12 | 在宅ターミナル期にある事例（アセスメント） | 演習 | 教室 |
| 13 | 在宅ターミナル期にある事例（訪問計画） | 演習 | 教室 |
| 14 | 在宅ターミナル期にある事例の看護援助（訪問演習）① | 演習 | 実習室 |
| 15 | 在宅ターミナル期にある事例の看護援助（訪問演習）② | 演習 | 実習室 |

備考
※受講・演習態度が著しく悪い場合は、減点扱いとする
※ノート・レポートの提出が期限を過ぎた場合は、減点扱いとする

| 評価 | 授業態度、出席状況、演習パフォーマンス、各演習後レポート内容、レポート提出状況により総合的に判断する。 |
|---|---|
| 使用テキスト | 臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　地域医療を支えるケア　MCメディカ出版<br>臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　MCメディカ出版 |
| 参考図書 | 正野逸子　著:関連図で理解する在宅看護過程　メヂカルフレンド社<br>講義の中で随時紹介する |

統合分野

| 科目 | 在宅看護論実習<br>Home Nursing Training | 単位数<br>(時間) | 2単位<br>(90時間) | 担当教員 | 木村弘美<br>粟井美里 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　後期 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | 訪問看護の実際を通して、対象である在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の方法を学ぶ。<br>また、地域保健活動の実際を通して、地域における看護職の役割や地域包括ケアシステムを理解し、社会資源の活用や関連機関・職種との連携の必要性を学ぶ。 |
| 授業計画 | 訪問看護実習（4日間）<br>1　訪問看護ステーションにおいて、訪問看護の実際を見学、援助する。<br><br>地域連携室実習（１日間）<br>1　病院連携室における退院支援の方法を理解する。<br><br>地域実習（3日間）<br>1　地域で行われている保健活動に参加し、看護職としての役割を考える。<br>2　地域包括ケアシステムの実際を知り、多職種の連携を学ぶ。<br>学内実習（1日間）<br>1 自己の学びを振り返り、実習のまとめを発表する。 |
| 評価 | 別に記載する実習要綱の内容に沿って評価する。 |
| 使用テキスト | 臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　地域医療を支えるケア　MCメディカ出版<br>臺有桂　他：ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　MCメディカ出版<br><br>在宅看護概論、援助論Ⅰ、援助論Ⅱ、技術演習で使用した講義ノートや資料など |
| 参考図書 | 解剖生理学、病態学、薬理などのテキストならび参考文献、資料<br>老年看護学、母性看護学、小児看護学、成人看護学などの専門分野テキストや資料<br>国民衛生の動向、社会福祉、関係法規のテキストや資料 |

統合分野

| 科目 | 看護マネジメント論<br>Nursing Management | 単位数(時間) | 1単位(30時間) | 担当教員 | 近藤由美、松下亜美<br>八木 純 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 後期 | | |

| 授業概要 | 看護管理における基礎的知識を習得し、看護や医療安全をマネジメントするための基礎的能力を養う。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 科目ガイダンス 1 看護におけるマネジメント 1)組織とマネジメント | 講義 | 課題 |
| 2 | 2)看護管理と看護マネジメント 3)看護師とマネジメント | 講義 | 課題 |
| 3 | 2 看護の質保証と看護マネジメント 1)看護サービス 2)看護技術と看護ケア | 講義 | 課題 |
| 4 | 3)患者の権利擁護と看護倫理 4)医療安全管理 | 講義・演習 | 課題 |
| 5 | 4)医療安全管理 | 演習 | 課題 |
| 6 | 4)医療安全管理 | 演習 | 課題 |
| 7 | 3 看護マネジメントのスキル 1)人間関係を構築する技術 | 講義・演習 | 課題 |
| 8 | 1)人間関係を構築する技術 | 講義・演習 | 課題 |
| 9 | 2)組織の効率性を高める技術 | 講義・演習 | 課題 |
| 10 | 2)組織の効率性を高める技術 | 講義 | |
| 11 | 4 看護と経営 1)組織の理解 | 講義 | |
| 12 | 2)経営の理解 | 講義 | |
| 13 | 2)経営の理解 | 講義・演習 | 課題 |
| 14 | 5 看護と教育 | 演習 | 課題 |
| 15 | 5 看護と教育 キャリアデザイン発表 6 看護と法律 | 講義 | |

備考
＊ 1回目の授業で科目ガイダンスを実施予定。
＊ 授業には主体的に参加し、反応を示す。(授業内の発表、課題は評価の対象となる。)
＊ 参加態度が悪い場合(許可なく携帯電話を使用、私語、居眠り、欠席など)は欠課または減点の対象となる。
＊ 講義ノートは授業の開始までに必要内容を準備して臨む。

| 評価 | 授業内の発表、授業態度、課題等(15点)<br>演習の成果物(松下分10点)<br>筆記試験(75点-近藤分55点、八木分20点) |
|---|---|
| 使用テキスト | 吉田千文、志田京子、手島恵、武村雪絵 編集:ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理、MCメディカ出版.<br>松下由美子、杉山良子、小林美雪 編集:ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践②医療安全、MCメディカ出版.<br>看護法令要覧、日本看護協会出版会 |
| 参考図書 | 橋本和子 編著:改訂第2版 これからの看護管理、MCメディカ出版、2007.<br>城ヶ端初子編集:看護マネジメントの基礎と応用、医学芸術社、2010.<br>隅本邦彦:医療・看護事故の真実と教訓、ライフサポート社、2008.<br>小西恵美子:看護倫理、南江堂、2014. |

統合分野

| 科目 | 看護研究演習<br>Nursing Research Seminar | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 山﨑伸恵（ヤマザキ ノブエ） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次　前期 | | |

| 授業概要 | 看護における研究の必要性や研究の進め方を学び、文献のクリティークや研究計画書の作成を通して研究方法を理解し、探究心や自己研鑽等の研究的態度を養う。 |
|---|---|

| 回 | 授業計画 | 事前学習 | 方法 | テスト等 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 看護研究とは何か、なぜ看護研究が必要なのか | 序章、1章、終章 | 講義・ワーク | |
| 2 | 研究の何から始めるか、文献検索 | 2章、3章 | 講義・ワーク | 確認テスト |
| 3 | 研究テーマを見つけよう、研究計画書作成 | 8章 | 講義・ワーク | |
| 4 | 調べた文献をクリティークしてみよう | 3章 | 講義・ワーク | |
| 5 | 看護研究に倫理がなぜ必要か1 | 4章 | 講義・ワーク | |
| 6 | 看護研究に倫理がなぜ必要か2 | | ワーク | 確認テスト |
| 7 | 看護研究に倫理がなぜ必要か3 | | 発表 | |
| 8 | 研究デザインって何 | 5章、10章、11章、12章 | 講義・ワーク | |
| 9 | 研究計画書作成 | | ワーク | 確認テスト |
| 10 | 研究計画書作成 | | ワーク | |
| 11 | 効果的なプレゼンテーションとは | 9章 | 講義・ワーク | |
| 12 | 研究計画書作成 | | ワーク | 確認テスト |
| 13 | データ収集と分析1 | 6章、7章 | 講義・ワーク | |
| 14 | データ収集と分析2 | | ワーク | 確認テスト |
| 15 | データ収集と分析3 | | 発表 | |

| 備考 | ※事前に課題が提示されるので課題を実施して授業に臨むこと<br>※提出物の提出期限に遅れた場合は、原則提出不可となる |
|---|---|
| 評価 | 授業態度、課題、確認テストにより**総合的に**判断する。 |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　別巻　看護研究　　医学書院 |
| 参考図書 | 適宜紹介する |

| 科目 | キャリア形成Ⅱ<br>Career formationⅡ | 単位数（時間） | 1単位（30時間） | 担当教員 | 杉谷美幸（スギヤ ミユキ）<br>松浦朋代（マツウラ トモヨ） 粟井美里（アワイ ミサト） |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 実施時期 | 2年次 通年 | | |

**授業概要**

看護実践能力の向上やキャリア形成を目指し、自己教育力やチーム力、将来設計能力を含むキャリアプランニング能力を養う。その上で、生涯学習の視点から、看護師としての職業アイデンティティの確立を目指し、キャリアデザインに基づく進路を自己決定するための準備を行う。

| 回 | 授業計画 | 担当 | 方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス（2年次ガイダンス、履修について） | 杉谷 | 講義 |
| 2 | キャリア形成とキャリアポートフォリオ（看護観と目指す看護師像、キャリアポートフォリオ） | ↑ | 講義・演習 |
| 3 | キャリア形成とキャリアポートフォリオ（宣誓式ワークー目指す看護師像の共有化） | | 演習 |
| 4 | 〃 （宣誓式ワークー目指す看護師像の深化、グループ内でのまとめ） | | 演習 |
| 5 | 〃 （宣誓式ワークー中間発表） | | 演習 |
| 6 | 〃 （宣誓式ワークー宣誓式を終えて、キャリアポートフォリオの活用） | | 演習 |
| 7 | キャリアプランニング能力の育成<br>（キャリアポートフォリオの発表会、キャリアプランニング能力） | | 演習 |
| 8 | 〃 （キャリアプランニング能力とキャリアデザイン） | ↓ | |
| 9 | 〃 （就職ガイダンス） | 杉谷、大谷 | 講義 |
| 10 | 〃 （キャリアアップ） | ↑ 杉谷 | シンポジウム |
| 11 | ガイダンス（領域別オリエンテーション） | ↓ | |
| 12 | 看護実践能力の強化と自己教育力（自己教育力と看護師国家試験対策） | 松浦 粟井 | |
| 13 | 〃 模擬試験振り返り学習会 | ↑ | |
| 14 | 〃 模擬試験振り返り学習会 | | |
| 15 | 〃 模擬試験振り返り学習会 | ↓ | |

**評価**

別紙ルーブリックの認定基準による。

**使用テキスト**

学生便覧
履修案内
＊講義内に資料配布

**参考図書**


1）文部科学省：キャリア教育とは何か-文部科学省ホームページ
2）西岡加名恵、石井英真、田中耕治：新しい教育評価入門、有斐閣コンパクト、2016.
3）西岡加名恵：教科と総合学習のカリキュラム設計、図書文化、2016.
4）西岡加名恵：教科と総合に活かすポートフォリオ評価法、図書文化、2015.
5）宮本浩子、西岡加名恵他：ポートフォリオ評価法　実践編、日本標準、2004.
6）教科「職業とキャリア」一般財団法人　職業教育・キャリア教育財団、2015.
7）鈴木敏江：アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する、医学書院、2016.